

# 糖尿病性網膜症について

## ▶糖尿病の3大合併症

糖尿病に特有な慢性合併症には、

### 3大合併症

- ・網膜症
- ・腎症
- ・神経障害

その他特有ではないけれど起こりやすい合併症

- ・心筋梗塞、脳梗塞(大血管障害)
- ・下肢動脈閉塞性硬化症、壊疽
- ・白内障

などがあります。これらの合併症は、血糖の高い状態が続くことで動脈硬化が進み、血液がドロドロになってしまう為に、細い小さな血管がふさがれ酸素の供給が困難になっていくことによって引き起こされます。

したがって、糖尿病を放置していたり、治療を怠っていたりすると、これらの合併症を引き起こすことになります。

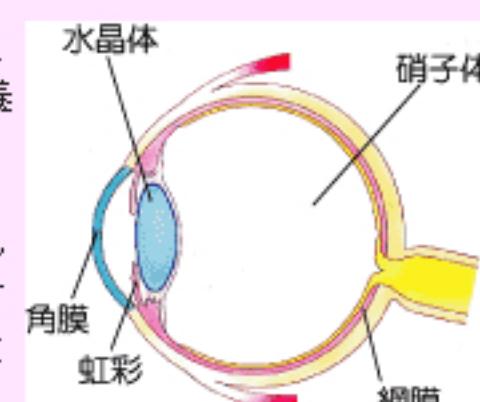
## ▶糖尿病性網膜症について

この合併症は大変深刻なものです。

なぜなら、失明の危険があるからなんです。目が見えなくなる、これは五感の中でも、失うことがもっとも恐れられています。でも残念なことに、この糖尿病性網膜症は、糖尿病の方の約50%の方が発症するとも言われています。

目(眼球)をカメラに例えると、水晶体はレンズ、虹彩が絞り、そして網膜はフィルムに当たります。このフィルム(網膜)はその機能を保つ為に非常に細かい血管が張り巡らされていて、十分な酸素や養分が行き渡るようになっています。

先程も書きました様に、糖尿病を放置していたり、治療を怠っていると、高血糖や、血糖のコントロールの悪い状態が続き、網膜の血管が傷害されてしまいます。そうなると出血したり血管が詰まったりしてきます。そして、網膜は酸素や養分不足となり、ひどくなると硝子体出血や網膜剥離を起こして失明に至ります。



## ▶糖尿病のみなさん、大切な視力を守るために、年に一度は必ず、眼科医による眼底検査を受けましょう。

眼底検査とは、網膜症があるかどうか、またどのくらいの段階なのかを見る検査です。

長期に渡る高血糖は、網膜に重大な被害をもたらすのですが、実は網膜症は、かなり症状が進行するまで、自覚症状が無かったり、普通の視力検査などでは発見されにくいようです。

たとえ視力が落ちてきていなくても、すでに眼底出血を起こしていることもあります。視力が判断の基準にはならない場合もあるからです。下の写真は、糖尿病性網膜症の各段階での眼底写真です。



正常



初期の出血(自覚なし)



失明